

（午前9時30分 開議）

○議長（土井裕美子君）ただ今の出席議員数は18人で全員であります。

○議長（土井裕美子君）これより本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（土井裕美子君）これより日程に入り、日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において5番 板橋さん、10番 高本さんの2名を指名いたします。

日程第2 一般質問

○議長（土井裕美子君）日程第2 一般質問を行います。

順番13、2番 垣内さん。

〔2番（垣内憲一君）登壇〕

○2番（垣内憲一君）皆さん、おはようございます。令和クラブの垣内憲一でございます。

まず、昨日、新潟、山形の震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、被害に遭われた皆さまの一日も早い復興をお祈りします。

さきの市議会議員選挙において、歴史ある橋本市議会の末席に座らせていただくことができました。ここにおられます平木市長さま、先輩議員の皆さま、また、市の職員の皆さま方からいろいろなことを学ばせていただき、本市発展に少しでもお役に立ちたいと思っております。そして、私を支持していただいた多くの市民の皆さまの期待を裏切ることがないよう精いっぱい努力してまいり、行政に市

民の皆さまの声を届け、市民の皆さまと協働で令和新時代にふさわしい橋本市を築いてまいります決意でございます。

質問の前に、痛ましい事故や考えられない事件で幼い命が奪われております。犠牲になられた皆さまに心より哀悼の意を表します。

それでは、議長のお許しをいただいたので、一般質問を始めさせていただきます。

私は長年、運送業に携わっております。ドライバーとともに、絶対無事故を最優先に営んでおります。私、垣内憲一が市議会議員を志した一つが、日本一子育てしやすい橋本市をつくるです。

そんな折、滋賀県大津市において、散歩途中の園児が交通事故に巻き込まれ、うち2名が亡くなるという痛ましい事故が発生しました。また、先日においても、公園に遊びに行く園児19人の列に車が突っ込み、2人の園児が重軽傷を負うような事故がございます。

交通事故の悲惨さは運送業界でいる者として他人事ではございません。事故に対して、業務上、誰よりも一番敏感になっていると思います。誰もが加害者になり得るということを痛感いたします。

大津の事故においては、現時点で保育所の対応に問題のある点は確認されておませんが、保育中の事故防止について、より安全対策が求められています。子どもを預かる保育園や幼稚園、こども園は、各園ともに事故防止に努めているとは思いますが、散歩などの保育所外の活動においては特に安全管理を求められるようになりました。

そこでお伺いします。

①本市における園外保育の安全対策、安全管理は万全ですか。

②事故発生後、本市はどのような取り組みをしましたか。

以上二点についてお伺いします。

次に、児童虐待防止と家庭支援についてお尋ねします。

この6月、札幌で2歳児が衰弱し、虐待が疑われています。昨年3月に東京都目黒区で5歳の女兒が、今年1月には千葉県野田市で小学4年生の女兒が、それぞれ父親等から虐待を受け、その後死亡するという悲惨な事件が続いています。

これらの事件には全国民が涙しました。育児や子育ての悩みや苦痛を抱く親や家庭は少なくありません。さらに、家庭環境やさまざまな要因でその苦悩を通り越し、児童虐待、ネグレクト（育児放棄）、DV（配偶者への暴力）など、子どもを含めたその家庭そのものに支援を必要とする案件は年々増えていると感じます。

そこで、お尋ねします。

①報道された事件のような児童虐待は本市に存在していませんか。その実情をお答えください。

②見守り支援が必要な子育て家庭に対し、本市はどのような取り組みをしていますか。

以上、壇上からの質問を終わらせていただきます。明確なご答弁をよろしく願います。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さんの質問項目1、保育所・幼稚園・こども園における園外保育の安全対策に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（吉田健司君）登壇〕

○健康福祉部長（吉田健司君）おはようございます。

保育所・幼稚園・こども園における園外保育の安全対策についてお答えします。

まず、一点目の、園外保育の安全対策、安全管理ですが、園外保育には遠足など行事としての園外保育とお散歩など日常活動としての園外保育の2種類があり、どちらも子どもたちが直接、外の世界を見て、自然の中で動植物に触れ、土の上を歩き、興味の幅を広げてあげることが最大のねらいです。

この園外保育で大事なことは、事前の準備、すなわち現場の下見であります。遠足の場合は、特にコースの確認や交通量、危険な箇所がないかなど、前もって把握しておかなければなりません。

次に大事なものは、引率する保育者間の連携と役割分担、意識の共有であります。例えば、お散歩の場合、引率の保育者は子どもの列の先頭と最後方に配置し、声をかけ合い、保育者や園児同士で手をつなぎ、かつ、保育者は車道側を歩くなど子どもたちが車両と接触しないよう誘導しなければなりません。保育者は常に、子どもたちの動きや周囲に目を配り、事故が起きないように細心の注意を払います。

市内の保育所・幼稚園・こども園では、各園がこの取り組みを徹底し、安全対策・管理に努めており、これまで交通事故等による被害は発生しておりません。

次に、二点目の、事故発生後の本市の取り組みについてお答えします。

本市は事故発生の翌日、市内各園に対して、園外保育における安全管理について文書通知をし、あわせて園外保育上で交通の危険があると思われる箇所について確認を依頼しました。具体的には、現在の散歩コースの安全管理について再確認をお願いするとともに、各園が危険であると思われる箇所、信号機や横断歩道などの必要性について意見を伺いました。

その翌日には国より、保育所等での保育における安全管理の徹底についての通達もあり

ましたので、保育所外での活動の際の移動経路の安全性や職員体制の再確認等について、その取り扱いの徹底を促し、重複して市内各園に周知しているところです。

各園から寄せられた危険であると思われる箇所については、現場確認の上、その集約を行い、現在、担当のこども課と関係各課が調整し、その安全性を高めるための対応策を協議しております。中でも危険性が高いと判断する箇所については、補正予算で早急な対応を図っていきたいと考えています。

また、場所によっては信号機や横断歩道の設置の必要性もあると判断しますので、今後、警察や和歌山県に対しても、その対策について協議、要望していく予定です。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん、再質問ありますか。

2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

大津市の事故後、橋本市において散歩コースを見直した園はございますか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）今回の事故で、答弁させていただきましたように、市内各園で散歩コースの再確認を行いました。その中で、実際、コースを変更した園は約半数近くあると把握しております。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

半数やっぱりそういう危険な箇所があったということなんやけども、より安全を期するために、各園にはどのような対策を求めているとかそういうのはございますでしょうか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）具体的には、今のところ55箇所、各園から危険箇所とか注意が必要な箇所ということで出てきております。

その中で園に対しては、危険な場所やコースは必ず回避してほしいという指示は出しております。それから、行き先とか園児数にもよるんですけども、例えば、クラス全員で列をつくるのではなく、お散歩組とお部屋組で入れ替わるとか、少人数でより安全な散歩ができるような工夫を各園で考えてほしいということ、今、指示を出しております。

以上です。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

そういった敏速な対応が、ご父兄の皆さんとか園児の皆さんとか、また、周りの皆さんが安心していただけることやと思いますので、これからもそういうふうに敏速に対応していただけたらありがたいと思います。

何よりも僕が心配なのは、何よりも心配なあって、済みません、事故発生後、現場でおられる保育士にかなり相当なプレッシャーがかかっておると思うんですけども、そういった点で先生方に何かフォローしていくとか、そういうのはございますでしょうか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）各園に回っていただいているこども課の職員もおりますけども、やはりこの事故が発生した後は大変なショックというか危機感を持っておられるみたいなんです。この中で、やっぱりお散歩が怖いという保育者の危機感はちょっと避けられないかなとは感じております。

そんな中で、施設長、園長とか主任が保育者の精神面や体調面の配慮をしていただいて、無理をせず、引率体制をしっかり整えて園外保育を実施してほしいと考えております。園児の安全が第一ですので、それを見守る保育者の負担も園長とかにケアしていただきたいと考えております。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番(垣内憲一君)ありがとうございます。

安全対策ももちろん大切なことやと思うんですけども、やはり、そこに携わっていただいている先生方がプレッシャーを感じ過ぎて、僕は先生のほうの笑顔がなくなるのが心配で、少しでもそういう、先生方がいつもにこにこおられるような環境づくりというのを、またこれからも前向きに考えていっていただきたいと思います。

その危険箇所と思われる各園からの調査報告で、具体的な内容として何かございましたか。

○議長(土井裕美子君)健康福祉部長。

○健康福祉部長(吉田健司君)非常に多かったところから説明させていただきますと、散歩コースで一番多かったのが、「横断歩道がないので設置してほしい」、それから、今回の事故でもあったんですけども、「待機場所にガードレールやポールがないので設置してほしい」、それから、これは警察の関係になるんですけども、「感知式信号機を設置してほしい」、それから、これも多かったんですけども、「信号待ちするスペースが非常に狭い」、この辺が大分危険かなと思います。幹線道路で車のスピードがあるため危険と感ずることや、交差点での待機場所の安全確保に関する内容が非常に多かったと感じております。

○議長(土井裕美子君)2番 垣内さん。

○2番(垣内憲一君)ありがとうございます。

実際、うち、小峰台、市民病院の近くにも、早朝、市民病院に行かれる職員がたくさん通られる道がありまして、今、あやの台のほうから、紀見ヶ丘やったかな、のほうから園児が歩いて通学されている子がいてるんですけども、やはりそこも歩行者用の信号機がないということで、ご父兄の方が引率されておるんですけども、そこで私も、やはり一方的に片方だけで車をとめるんじゃなしに、私も協

力させていただいて、両側で車をとめて、安全に通っていただくというのをやらせてもらっているんですけども、そういう危険な箇所、そういうのをまた、地域のみんなで子どもを守っていけるような体制づくりというのもこれから僕は必要じゃないかと。

今も協力していただいている方もたくさんおられるんですけども、もっとそういう、いろんな人らに協力していただいて、子どもたちが安全に笑顔で暮らせて通学できるような環境づくりというのを目指していただきたいと思います。

今後、その結果をどういうふうに生かしていくかとかいう予定はございますでしょうか。

○議長(土井裕美子君)健康福祉部長。

○健康福祉部長(吉田健司君)先ほど言いましたように、今のところ55箇所が提出されてきています。その中で、警察に要望するものとか国に要望するもの、それから県に要望するもの、それから市で対応できるもの、その辺が分かれていくと思います。

具体的に、ハード面につきましては、国とか県、警察に要望していきたいと考えています。特に、信号機の設置とかは警察の関係になると思います。それから、市道等については順を追って、建設部の協力をいただいて、本市が安全対策を行う形になると思います。それから、待機場所、交通状況などを踏まえて、危険性を総合的に判断して、優先順位を決めていきたいと考えています。それから、あわせて教育委員会に通学路安全プログラムの対応箇所というのがあるんですけども、それとも内部調整を行っていききたいと思っています。

また、天津市の事故の発生後、園外保育の際に警察官が同行してくれたところもありました。可能であれば他園についても、警察のほうにそういう形で定期的な同行を依頼して

いきたいと考えています。それから、横断歩道や信号待ちの場所、安全対策を図る交通指導の協力を求めているとも考えています。

そういう形で、ハード面、ソフト面両方の面で早急な対応をしていきたいと考えております。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

警察官の方に引率していただくのもありがたいんですけど、やはり地元のボランティア、元気なおじいちゃん、おばあちゃんとかもおられると思うので、そういうネットワークというものも組んでいただいて、みんなで子どもたちを守るという環境づくりというのをやっていただけたらありがたいと思います。

本年5月16日に、こういった形で国土交通省のほうから、交通安全対策特別委員会・内閣第一部会・国土交通部会合同会議において、子どもの交通安全対策等について関係省庁よりヒアリングがあり、国会議員の皆さまが議論されました。国土交通省では、園児の移動経路において交通安全の確保のため道路管理者と都道府県警察と合同で点検を実施するよう、5月13日付で通達されております。

先ほど言うてくれていたのもこのことやと思うんですけども、また、昨日18日付で、高齢者限定免許やキッズゾーンを増設ということで、政府交通安全緊急対策、18日閣議決定されました。子どもの交通安全として、今年の秋をめどにスクールゾーンに準ずるキッズゾーン増設を検討するほか、園外活動時に子どもを見守るキッズカード・モデル事業を実施し、制度化を検討するとあります。

こういうのをもっと橋本市に、どこよりも早く取り入れていただけたらありがたいと思います。

これで一つ目の質問を終わらせていただきます。

○議長（土井裕美子君）次に、質問項目2、児童虐待防止と家庭支援に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（吉田健司君）登壇〕

○健康福祉部長（吉田健司君）児童虐待防止と家庭支援についてお答えします。

まず、一点目の、東京都目黒区や千葉県野田市で起きたような児童虐待による悲惨な事件について、本市に存在していませんかというおたしですが、本市では今のところ、児童が死亡するという痛ましい事故は存在していません。

しかし、本市でも、養育者等から虐待や養育困難などの理由から、児童相談所や保育園・幼稚園・こども園または学校と連携して児童を一時保護する事例があり、平成29年度は10世帯（15人）、平成30年度は6世帯（8人）の児童が一時保護となっています。

次に、二点目の、見守りや支援が必要な子育て家庭に対する本市の取り組みについてお答えします。

見守りや支援が必要な子育て家庭に対しての取り組みについては、本市では平成28年度から、こども課と学校教育課に教育福祉担当職員を配置し、子どもにかかわる関係課、関係機関が教育と福祉の連係に関する協議を続けてきました。

平成29年4月には総合政策部に教育福祉連係推進室を、また、健康福祉部健康課に子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠期から18歳までを見通した切れ目のない支援を実施することになりました。

平成29年8月に出された子育て世代包括支援センター業務ガイドラインでは、妊娠期から子育て期、特に3歳までの子育て期について重点をおくこととしていましたが、本市では将来のひきこもり予防や健全育成にもつな

げたいため、対象年齢を18歳までとしました。

妊娠期より支援の必要な妊婦を把握し、早期から医療機関や関係機関と連携して見守る体制をとっています。出産後は母子保健推進員による乳児全戸訪問事業や乳幼児健診、相談訪問等、さまざまな機会を通じて支援を継続してきました。

特に力を入れてきたところは、小学校、中学校、高校の児童生徒への支援です。虐待を未然に防ぐだけでなく、発達に課題のある子どもへのかかわりに悩む保護者への支援をはじめ、学年が上がるとゲームやインターネットへの依存による生活リズムの乱れ、親子関係や友人関係のトラブルから精神的にしんどくなる生徒の支援、高齢者介護と不登校問題等、支援が複雑多岐にわたる家庭も多く、学校や関係機関と連携し、必要な支援をつなぐことで、不登校や問題行動、親子関係の改善等の事例も出てきました。

この4月からは機構改革の中で、教育と福祉の連携を目的として、三つの課・室の業務が統合され、子育て世代包括支援センターとして一つの課となりました。このことにより、市民の皆さまに相談窓口が明確になったことで、相談しやすくなったことや、相談が来たときに情報の連携がとりやすいため、早期に必要な支援が結び付けられるというメリットがあります。

問題や課題が多い家庭ほど支援を求める力が弱く、関係機関につながりにくい傾向があります。今後も体制や連携を強化しつつ、市民の皆さまや関係機関向けの研修会や啓発活動を続け、支援の必要な家庭への早期発見に取り組んでいきたいと考えています。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん、再質問ありますか。

2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

市民の皆さんに相談窓口が明確になったということで、子育て世代包括支援センターというのができたというのを聞かせていただいたんですけども、実際に相談を寄せるのは、支援が必要な当事者よりも、その周囲のほうから相談が多いと思うんです。当事者からの相談も増えてきているのでしょうか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）先ほど答弁をさせていただきましたように、平成29年度に窓口を一本化したということで、フリーダイヤルも設置させていただきました。相談しやすい体制づくりに努めてはいるんですけども、今、議員おただしのように、実績として当事者家庭からの相談は、今、集計をとったんですけども、12.8%にとどまっております。

やはり、相談者の多くは小学校、中学校、高等学校の相談で38.4%、関係課、関係機関からの相談が36%ということで、ご質問のとおり、当事者からの相談というのがちょっと少ないかなとは思っております。

以後、広報はしもととかにも既にもう啓発活動とかはやっているんですけども、これからも、保育園・幼稚園・こども園、小学校、中学校、高校へのお知らせをはじめ、平成30年度にはパンフレットを新しくつくりましたので、それを使った各種団体への啓発等も考えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

やはり、そういういいことをやっていたらいいのか、そういう情報というのをやっぱり少しでも市民の皆さまにわかっただけのような、きのう、ほかの議員もおっしゃっていましたが、1階のロビーとかの壁とかにも、こういう制度がありますよとか、そういうのをまた貼って、1

人でも多くの人に、こういう制度があるということを知っていただくようなものをつくっていただきたいと思います。

支援の必要な家族の早期発見に取り組んできたという中で、具体的な取り組みの方個性はありますか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）相談実績から読みとれることなんですけども、大変な家庭ほどSOSが出にくい、こちらも把握しにくいという点が非常に多いと思います。当事者だけでなく家庭を取り巻く周囲の人たちが、どこどこへ行けばとか、口コミで広がっていただければ非常に助かるんですけども、一番心強いんですけども、市議会議員の皆さんとかもそういう形で周知を広げていただきたいと思います。

また、小学校以降の子どもたちには、各学校に子育て世代包括支援センターが職員を巡回で派遣していただいて、気になる子どもや家庭を継続して見守る体制をとっていただいています。

今後の支援の輪を広げる仕組みづくりを構築していきたいと考えております。

それと、先ほど答弁もれがありまして、当事者からの相談ですけども、平成29年度は

12.8%でしたけども、いろいろな周知とかを徹底しまして、平成30年度は2割近くに上がっております。訂正させていただきます。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さん。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

昨年2月28日に、児童虐待防止対策に係る学校等及びその設置者と市町村・児童相談所との連携の強化について各関係各省から通知され、3月19日、児童虐待防止対策に関する関係閣僚会議において、児童虐待防止対策の抜本的な強化について対策が決定されました。にもかかわらず、札幌のような痛ましい事件が起きました。

本市においても絶対そのようなことが起こらないよう、子育て世代包括支援センターを中心に、本市の中心部関係者とともに地域警察と連携をとって、密に、将来を担う子どもたちの健全育成に力をあわせて、子どもたちがいつでも笑顔と元気でおれるようなまちづくりをしていきたいと思います。

以上、これで私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（土井裕美子君）2番 垣内さんの一般質問は終わりました。